

地域ネットワークニュース

～平成25年1月の勉強会のお知らせ & 12月の勉強会報告～

新年明けまして おめでとうございます

第180回 地域ネットワーク勉強会

冬の感染症から 身を守ろう



講師：あきら医院 中島章 院長



1月23日(水)

午後7時～午後9時

神栖市保健・福祉会館内にて

参加費無料

冬は外気が寒く、乾燥することで様々な感染症のウイルスが活性化する季節です。ヒトの体も体温が下がって免疫力が落ちることに加え、夏に比べて水分を積極的に摂らなくなるために体内の水分も少なくなりがちです。喉や気管支が乾燥するとウイルスの侵入を防ぐ粘膜が傷みやすくなり、ウイルス感染を起こしやすくなります。特に冬場に流行する感染症ではノロウイルス等のウイルス性の胃腸炎やインフルエンザなどが著名ですが、最近ではマイコプラズマ肺炎なども非常に多くなっている状況があります。

勉強会では中島先生に内科医の立場から、これらの冬に流行する感染症の特徴、予防法、対処法についてお話しいただきます。特に抵抗力の低い高齢者や小さなお子さんは命に関わることもあります。そういったご家族のいる方や、保育者や介護施設等の職員のみなさんで感染症を広げない知識を深めておきましょう。ぜひご参加ください。

お問い合わせ：電話 0299-93-0294 神栖市社会福祉協議会 地域福祉推進センター 名雪

第179回 地域ネットワーク勉強会報告 12月11日開催(参加者42名)



発達が気になる子への遊びの捉え方

～遊びで得られる信頼関係～

講師：神経科クリニック こどもの園 菊池春樹氏(精神保健福祉士)

「『遊びを学ぶ』ためにまずはみんなで遊びましょう。」と、参加者全員での「だるまさんがころんだ」からスタートした勉強会。

子どもの発達にかかせないことの一つに‘アタッチメント’があります。これは子どもが親や支援者を安全、安心な場所として認識、信頼し、不安や恐れを軽減してくれる対象として感じられることです。このアタッチメントが成立していないと遊びも発展しにくくなります。

自閉症などの発達障害を抱える子どもはアタッチメントの形成が見えにくい(表現や態度に表れにくい)ことがあります。アタッチメントを形成できないわけではなく、むしろ療育や発達にはとても重要なポイントであり、親や支援者が子どもの行動や表情、態度への敏感性、応答性を高めることによって、お互いの信頼関係を深めることができるということです。

遊びは楽しむことから。子どもが自発的に、自分の好きなことをする自由遊び(非構成的な遊び)を活かしながら、そこに課題遊び(構成的な遊び)を取り入れることでムリのない、発達を促す遊びができることを様々なワークを通じて学ぶことができました。